

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	おすすめメッセージ
加藤 健太 先生	
① 図書名：訂正する力 著者：東 浩紀 出版社：朝日新書	<p>本書は、「日本にいま必要なのは『訂正する力』です。」という一文から始まる。それは、人間が、感情に動かされ、判断をまちがう「弱い生き物」という前提に立つからである。</p> <p>著者は、科学的根拠を積み上げて、理性的に議論すれば「正しい」結論に到達できるというのは幻想にすぎないと断言する。そして、試行錯誤することは主張を曲げることとは違うともいう。環境（相手）が変われば、これまでの表現が通じなくなることもある。だからこそ、新しい環境（相手）でも通じるように表現を変えたほうがいい。それを「訂正する力」と名づけたのである。</p> <p>「ひとは、誤ったことを訂正しながら生きていく。」ぼくも、この生き方を実践したいと思う。</p>
② 図書名：私とは何か—「個人」から「分人」へ 著者：平野啓一郎 出版社：講談社現代新書	<p>本書は、「分人」という耳慣れないキーワードを駆使して、人間関係のあり方にこれまでなかった斬新な提案をしている。それは、文字通り、〈目からウロコ〉な議論といってよい。</p> <p>具体的な話は実際に読んでもらいたいけど、1つだけ紹介しておこう。</p> <p>〈今の自分を変えたい〉と思っているひとは、少なくないだろう。しかし、大学生くらいオトナになると、変わることは簡単ではない。そのとき、つきあうひとを変えたり、環境を変えたりして、「分人の構成比率を変える」ことが有効な手段になる。それは、どういうことか。</p> <p>少しでも気になったひとは、ぜひ手にとってほしいと強く思う。</p>
③ 図書名：夢を叶えるゾウ 0（ゼロ） 著者：水野敬也 出版社：文響社	<p>本書は、ぼくが本学の『INTRO』の「教員おすすめの本」というコーナーで「おすすめ」している『夢をかなえるゾウ』のシリーズ最新作である。なので、「おすすめ」する理由も『INTRO』のそれとあまり変わらない。なので、ここでは、少しでも人生をたのしく生きるためのガネーシャの言葉を1つだけ紹介するにとどめておく。「すべて、伏線だ」、これである。その含意は、ぜひ本書を読んで自分で発見してもらいたい。</p> <p>あと、この作品にも、渋沢栄一や松下幸之助、本田宗一郎、ヘンリー・フォード、盛田昭夫など、ぼくが講義で光を当てる企業家・経営者が登場する。ガネーシャが引用する彼らの言葉から学ぶこともあるだろう。本書を「おすすめ」するもう1つの理由である。</p>